

CATCH the NEW!

●キャリン・ホワイト 日本公演●

「ロマンティック」のヒットから約3年。
セクシーでゴージャスな歌姫が帰ってきた。



前作

「リチャール・オブ・ラブ」の大ヒットを飛ばし、セクシーな歌姫として日本でもその人気に火がついたキャリン・ホワイト。昨年は約3年振りのニューアルバム「DORIGHT」を発表し、ファースト・シングルの「ハンガー」も現在チャートを上昇中と、好調なすべり出しを見せている。

実質2年半という、充電期間にしてはやや長めのブランクを過ごした彼女であるが、その時間を全て、音楽だ

けに捧げていたというわけではない。「リチャール・オブ・ラブ」制作時に出会ったプロデューサー、テリー・ルイスとウェディング・ベルを鳴らし、そして娘アシユリーを出産。シンガーとしてよりもひとりの女性として、人生のイベントを心ゆくまで満喫していたようなのである。

「仕事を休み、妊娠と出産、そして育児や家事に専念していたが、同時に自分を振り返り、自分を見つめ直す時間もたっぷりとした」と彼女自身が語る通り、ミュージック界から

遠退いていたことは決してマイナスではなく、より円熟味を増した人間としてのキャリアの幅を広げたものとなった。

そんなキャリン・ホワイトの新作である「DORIGHT」は、ジャム&ルイス、そして昨年初の日本公演が大盛況だったベビー・フェイスをサウンド・メイカーに迎え、また彼女自身も曲作り/アレンジ/プロデュースに加わったという自信作である。全10曲中8曲がバラードというこれまでにはない試みも、ブラコン好きの日本人にとってはこたえられない構成だ。

ちなみに彼女は昨年末に「DORIGHT」のプロモーションで来日し、数々のメディアに登場している。だが、まあどれも表情の明るいこと。公私共に充実しているのだから無理もないが、ラジオ番組では自慢の歌声を自ら披露するなど、非常に気さくでユーモアたっぷりのお姉サマしていたのが印象的だった。今回の来日は、新作を待ちわびていたファンにとって、まさに嬉しいプレゼントなのである。

■キャリン・ホワイト

- ・4月18日(火)
- ・大阪フェスティバルホール
- ・7:00スタート
- ・S6800円
- ・A6300円
- ・チケット発売中
- びあ・センソ・KPG
- 問H・I・P大阪

06・362・7301

小林 後、荏開津広、青木達之、鄭秀和、ジェイムス・P・ヴァイナーの5人のDJがアルバム「routine」を発表した。これは渋谷のDJBARインクステイックで毎月最終水曜に行なわれているイベントから発生した同名の作品である。いわゆるコンビレーションの形を取りながら、トータル・アルバムとして作り上げられたこの作品及びroutineについて小林、鄭両氏に聞いてみた。

1 まずアルバム「routine」を作るということになったきっかけですが、イベントとしてのroutineを形として残すという意図もあった

のでしょうか？

小林「(アルバム化については) やらなにかという話をビクターからもらったのがきっかけです。この作品は、形態はコンビレーションに近いんですけど、いわゆるコンビにしくなかつたというところが第一にありました。いっぱい色んな人が出て、皆んな勝手なことやってっていうふうなよくあるコンビってあんまり意味ないし面白くないと思つた。やるんだつたらトータルなアルバム、コンビレーションという感じじゃないものを作りたい。もちろんイベントをドキュメントするという意味もあつたし、その辺は意識しましたね」

中心としながらroutineには多様なゲストが参加されていますね「ナチュラル・カラミティ、ウマー・ハッサン(ラスト・ポエツ)、ソウル・ボッサ・トリオ他」。

小林「ええ。そのゲストもいきなり全然知らない有名な海外の人を入れたりっていうことじゃなく、routineが普段かけてるようなラスト・ポエツツツとか、荏開津君の知り合いのサイモン・アニーとか、そういう個人的なつながりで作ってるんです。そういう意味で「場」のリアリティみたいなものはすごく意識しました」

みなさん音楽は好きだし一生懸命やってるんですけど、基本的にミュージシャンとは考え方が違うんですね。今回その辺が何パーセント(アルバムに)出たかわかんないですけど、次にどういう形でやるかまだ見えませんけど、今後はもっと見えると思うんですけど、その辺が。今のところとなく有名なDJが集まって(アルバムを)出したっていうだけの認識だと思ってるんですけど、それはそれでいいんですけど」

1 例えばroutineはU.F.O.みたいな感じではないですかね。

小林「U.F.O.ってトータルなイメージとかあるじゃない？ クラブ。ミュージックってのがあって、インターナショナルなネットワークがあって、それで皆んなスーツ着てジャズを基本にしてるっていうね。routineはそういうところに本質がないし、逆に全く対局にある」

routineにはそれを誰かが個人的に所有してどうこうという感覚はまるでないと思うんですけど。だからと言って(routineは)新しい形態だと言つてもいいし。我々も形容する言葉を探してる段階なんですけど。ま、ファウンデーションです。次に何が起るかわかんないし。ひよつとしたらクラブをつくるかもしれないし」

小林「単一な方向性も上昇志向のものもないですね」

鄭「あくまでもファウンデーションですから。だからメンバー募集、アイデア募集もしてるんですよ。routine関西支部とか作ってね(笑)。ステッカーとかも作つたら暴走族みたいだな(笑)」

1 つまり、音楽的背景はもちろん、立場も全く違う5人が集まって、さて何が起るのか？ routineはそういうファウンデーションで感じでしょうか？

鄭「そうですね」

小林「そういう感じそういう感じ、見事。そのニュアンスはすごく近い」

1 今回はアルバムでしたが、次回がどういう形態になるかわからない分も、楽しみですね。だから本当にメンバー募集、アイデア募集。パトロンのむきたいな(笑)」



1 わかります(笑)。そういう関わり方も、いわゆるコンビとは異なつたところですよ。

小林「5人共、それぞれがプロデュースとかできちゃう人達なんで、逆にその辺の役割分担が他と変わつてると言うか。でもそういうのって昔、トーキング・ヘッズとかローリー・アンダーソンとかでありましたよね。ビジュアルとかだけやる人とか」

1 ビデオ担当の人とかですかね。

小林「そう。routineって、音楽というものを音楽として捉えちゃういわゆるミュージシャン的なものじゃないんです。DJっていうことだけじゃなく、鄭君は建築家でもあるし、ジェイムスは弁護士でもあるし。もちろん

皆んな音楽は好きだし一生懸命やってるんですけど、基本的にミュージシャンとは考え方が違うんですね。今回その辺が何パーセント(アルバムに)出たかわかんないんですけど、次にどういう形でやるかまだ見えませんけど、今後はもっと見えると思うんですけど、その辺が。今のところとなく有名なDJが集まって(アルバムを)出したっていうだけの認識だと思ってるんですけど、それはそれでいいんですけど」

1 例えばroutineはU.F.O.みたいな感じではないですかね。

小林「U.F.O.ってトータルなイメージとかあるじゃない？ クラブ。ミュージックってのがあって、インターナショナルなネットワークがあって、それで皆んなスーツ着てジャズを基本にしてるっていうね。routineはそういうところに本質がないし、逆に全く対局にある」

鄭「基本的にクオリティってことには拘ると思いますけど、グラフィックとか音とか。そういうクオリティ組織というか、次は何やるかわかんない集団とでも言いましょうか」

小林「極端に言えば次はいきなりポアダムスとかが入るかもしれないし。誰が参加するか、どういう方向に行くか全くわかんない」

1 分かんない言えばsoullsoullみみたいな形態と言えますかね？

小林「まあsoullsoullはジャジーBっていうコアがありますけど、その方が近いかもしれないですね」

鄭「5人共欲出してないと思うんですけど。routineでダックと駆け登る、みたいな。お互いに他にもやることやってますから。あくまでもroutineという与えられた場でクオリティを追求するということですね。例えばsoullsoullならジャジーBの所有物みたいなところあるけど、r



「routine」2,800円(税込) ビクターエンタテインメント

プロデューサー/DJ集団U.F.O
主催ブラウンウッド・レーベルからミ
ニ・アルバム「e.p」でデビューした
スモール・サークル・オブ・フレンズ
(以下SCOF)。同レーベルのコンビ
「マルチダイレクション」参加以来その
音楽性などが高評なSCOF。91年末
共同プロデューサーのU.F.Oとのメト
ロでのイベントも敢行した福岡発SC
OFの核、東里起と武藤さつきの二人
を直撃。

12月16日のメトロが関西初イベ
ントってことになるのでしょうか？

武藤「そうですね。以前福岡でフリー
ダム・エクスプレスをいうイベントをや
ってたんですけど、その頃竹村君(ス
ピリチュアル・ヴァイブス他)とかもゲ
ストDJで来て頂いて、竹村君も関
西において、みたいなことを言っ
て下さって、「一番来たかったとこなん
ですよ。彼も京都なんですよね」

SCOFも東京には行かずに福岡
で活動してられるわけですが、東京の
方に「おいてよ」なんて言われるで
しょう？

東「それが言われないんですよ」
武藤「えー言われても行かないでし
ょう？」

東「あ、うん(笑)」
武藤「U.F.Oとかも来て下さるし
(福岡に)いる分にはそんなに変わらな
いんじゃないかな」

キョート・ジャズ・マッシュウも最
初は京都で対イギリスって感じでやっ
てましたからね。

東「京都自体が盛り上がりつつあるでし
ょう。メトロでもバンドが入ったり」

「一時期ほどじゃないけど、まあキ
ュープはされてるでしょうかねえ」

東「キョート・ジャズ・マッシュウほど
じゃないにせよ、考えてみれば僕達も
そういうパーティーをやって盛り上げて

たし。なかなか持続力がないだけで」

武藤「そういうパーティーとかやってる
と、音とかも作りたくなってくるじゃな
いですか。そうすると、じゃ作るうって
ことになってサンブラーで音作ったりす
ると、一体誰が歌うの？って、最初ラ
ッパとか探したりしたんですよ。でも
結局本人(東里起)でやろうかみたい
な(笑)。じゃあ私が歌おう、僕がラッ
プしようみたいな(笑)。曲はずっと作
りたかったから、そういうアイデアはあ
ったんだけど」

東「ヒップホップは好きですって聞い
てたりしてますけどラップをやったのは
SCOFが初めてだった。フリーダ
ム・エクスプレスといういわゆるクラ
ブ・イベントをやったんだけど、直接
ものを言うわけでもないし、そういう場
みないなものを作ってるわけだから、な
かなか気持ちいいものは伝えられな
いなど考えたんですけど。その伝えたい
が為のステップアップの手段として音楽
を作り出したってところはあるか
な」

最初はライブ形式で演奏してたん
ですか？

東「結局ライブやり出したのは93年の
「マルチダイレクション」後なんです」
「すると先にデモテープを作ったん
ですね」

武藤「そう。でフリーダムのパーティ
でそれをかけたとか」
東「SCOFっていうグループ名も
「マルチダイレクション」に入ることが
決まって、じゃ名前決めなきゃという
ことだね」

武藤「そう。あとSCOFっていうス
ピリットも、語呂も良かったし」

東「曲目「S.C.O.F」という友達
に関する内容のSCOFのテーマ曲を

聞くと、SCOFという言葉の持つス
ピリチュアルな意味合いを強く感じま
すよね」

東「最初のうちは、曲を作りたいがゆ
えに歌詞を書いたんですけども、こ
んなにいいものはないや、こんなに気
持ちをダイレクトに伝えられるもの
はないって」

武藤「よく英語でやらないんですか
って言われる時もあるけど、やっぱり日
本語じゃないと。私達も英語なんてそ
んなにわかるもんじゃないし。ペラペラ
だったら違うだろうけど」

その必要性がないほどにSCOF
独自のスタイルが出来てきてますよね。
東「極めたいんですけどね。1曲目の
「SCOF」とかサビの部分だけは英
語だったりするんですけど(笑)」

武藤「そうそうそこは少しねって(笑)」
東「だけどあれって意味が通らないら
しい(笑)。でもそれもアリかなって」

その「S.C.O.F」は何とイタリ
アの映画の中で使われるとか。
東「そうみたいです。タイトルとかは
まだよく知らないんですけど」

武藤「マルチダイレクション」は今も
ヨーロッパで売られているんですけど、
それをその監督が個人的に聞いてて、
で「S.C.O.F」が気に入って、これ
は誰だ？探して来いって事に。でも最
初イタリア映画ってことだけ聞いてて、
H系だったらどうしよう(笑)、なんか
ありそうだよって(笑)。でも東京で
イタリアの方に聞いたら、その監督さ
んの作品ってイギリスの映画に「コミ
ットメント」ってありますよね、あんな
感じだそうってホッとしました(笑)」

東「日本のバンドが向こうに行くと放
浪するみたいな話らしいですよ」

「ところで福岡はクラブとかジャズと
か以前に音楽の町という印象が強い
んですが、実際どうなんでしょうか」

東「やっぱりロックが強いですね。実

際、多分僕らもすぐロックに影響さ
れてるし。大体サックスやれる若い人
なんていませんからね。だからモント
・グロソとか見て、「うわあパーカッシ
ョンなんかやる人がいる」と驚きましたか
らね(笑)」

東「(笑)でもそういう中からこれだ
けの質とセンスをもっていた人が、し
かもブラウンウッドから出たってこと
は、やはりいいものほどにいてもビッ
クアップされる、ということでしょう？
東「例えば今ギター、ベース、サン
ブラー、あと声っていうのがSCOFの
形ですが、まだまだその中でもやれるこ
とっていっぱいあるわけじゃないです
か。だから余計なモノを加えずにそ
中で極めるだけ極めたいですね」

協力/日本フォノグラム



「e.p」Small Circle Of Friends/
1,500円(税込)/日本フォノグラム



INTERVIEW

●Small Circle Of Friends インタビュー●
伝えたい気持ちがあったから、スモール・サークル・オブ・フレンズが出来た。

VIDEO

超常現象

という言葉を聞いた何故かワクワクしてしまうという人は、たぶん大勢いると思う。そこでなければ、TVの特番で世界中の怪しげな超能力者が来日することはないし、「矢追純一 UFO スペシャル」なども、

●「X・ファイル」を見る理由。●
 「第2のツイン・ピークス」と呼ばれた全米熱狂TV番組「THE X・FILES」。FBIの極秘資料に記された数々の謎の事件を追う二人の捜査官の物語は、「FBIの裏ビデオ」とも言っべき衝撃的事実に満ちている。

文/木村紀子

どうの昔になくなっていくだろう。大槻教授にしても、さぞかし穏やかな日々を送るに違いない。「体験者は語る」私は宇宙人に誘拐された!」とか「ホルターガイストに悩まされる一家」とか、信じる信じないに関係なく、人々の好奇心はこの手の話題にウズクのである。

X・ファイルとは、現代の科学では説明がつかない超常現象を扱った数々の謎の事件をひとつに集めた極秘資料の名称で、アメリカ連邦捜査局(FBI)に実際に保管

されているファイルのことをいう。今まで公にされることのなかったこのX・ファイルをめぐる、FBIの若き男女捜査官ふたりが真相を求めた姿を描いたTVドラマ「X・ファイル」が、このたびビデオとなって日本に紹介される。

アメリカで「ツイン・ピークスの再来」とも呼ばれたこのお化け番組は、一話完結60分のシリーズで、93年9月に全米4大ネットワークのひとつフオックステレビで放映された。その結果26・7%という驚異的視聴率を記録し、1クール終了予定のはずが、反響の大きさに昨年9月から第2クールをスタートさせている。さてその「X・ファイル」の魅力とは、どんなところにあるのだろうか。

ナ・スカリー。子供の頃、妹を宇宙人らしき何者かに連れ去られたという過去を持つモルダーは、超常現象肯定派のUFOフリーク。FBIでも変人扱いされている存在だ。一方スカリーのほうはいえ、医学博士でガチガチの現実主義者。やれ宇宙人だ異生物だと、常識を超えた持論を唱えるモルダーに「そんなことあり得ないわ!」といつも真っ向から反対している。この漫才のボケとツッコミのような二人が毎回、全米各地で起こる怪事件の捜査に乗り出すのだが、その事件というのがまた、わけのわからぬオカルトめいたものばかりなのだ。シリーズ全体のパターンとしては、まず突然に起こる非現実的な怪現象。観ているこちら側もストーリーにいくいくと引き込まれ、「ワッシャー」と首をひねっているうちに「転三転

と謎は深まるが、最後には必ず国防省の邪魔が入って捜査は迷宮入りとなり幕、てな具合だ。二人の必死の捜査にもかかわらず犠牲者はバツバツと増えてゆき、その上事件は未解決というんだから、一体あんたら、どないなつとりますのん?と問いただしたくなるのは無理もない。だが、この後味の悪さと、ニルニルとした不条理感覚こそが、従来のテレビ番組にはなかった大きな魅力である。ファンの間では大好評なのだ。それだけではない。「X・ファイル」のもうひとつの面白さは、物語の多くが実際に起こった未解決の事件を基にしている点で、常にどこか現実的でどこまでがフィクションかわからないという、非常にミステリアスな構成にある。FBIの捜査過程はあくまでリアルに科学的に描かれており、

そしてアメリカ政府や軍隊における描写の生々しさは、例えば矢追純一のUFO番組におけるキメのフレーズ「この件について、きつと政府は何かを隠しているに違いない!」のひびきを思いおこさせる不気味な雰囲気にも満ちている。一般の人間には計り知れない「陰謀」や「策略」の匂い。このうすら寒さは、かなり強烈だ。番組のファンに実際のFBI関係の人間が多いというのも、なるほど頷ける話である。

「X・ファイル」は来月に第1弾としてファースト・シーズンの「序章」他13編が、全7巻で発売される。現在アメリカでは映画化の話も進んでいるとの噂だが、果たして日本でもブームは巻き起こるか。まずはこの7巻を制覇してから、推測することしよう。

「X・ファイル」全7巻
 1/4 3月3日発売
 2/4 3月24日発売
 3/4 3月24日発売
 4/4 3月24日発売
 5/4 3月24日発売
 6/4 3月24日発売
 7/4 3月24日発売
 各14000円(税別)
 発売・フオックスビデオジャパン株式会社
 販売・ビクターエンタテインメント株式会社



モルダー役のデビッド・ドゥカブニー(左)は「ツイン・ピークス」[カリフォルニア]「ベートーベン」などに出演している。スカリー役のグリアン・ターソン(右)は、約300人の応募者の中から「X・ファイル」に選ばれたという期待の新鋭だ。



全米のマスコミがこぞって特集記事を組んだ。





ディスクロージャー

DISCLOSURE

女が強要し、男が拒む。果たしてそれはセクハラか。

公私

目にも合っていない男といえはこの人しかない、マイケル・ダグラス。彼の最新作が「セクハラ」モノだと聞いて、そうか、いつも女にやられっぱなしだったのが遂にやりかえしたか、などと思っていたのだが。いざ見てみると、セクハラする側ではなくされる側だったとは、今回も相当にトホホである。

シアトルのハイテク企業に勤めるサンタース（M・ダグラス）。夢に見た昇進がほぼ確実となった彼が、意気揚々と出勤するところから物語は始まる。だが社に着いてみると事態は一転、彼のものになるはずだったホジションに、どうしたわけか本社の女性社員が抜擢されていた。その女性こそ、10年前サンタースの恋人だったメレディス（デ

ミ・ムーア）。野心と美貌を武器に社長の寵愛を受ける彼女は、今や自分の部下となったサンタースまでも意のままに操ろうとする。誰もいないオフィスで彼女はサンタースを誘う。「私を抱きなさい。さもないと後悔するわよ」。なんと合理性で逃げ出したサンタースだが、面目を潰されたメレディスは黙っていない。「無理やり乱暴された」と、彼をセクハラで訴える手段に出る……。絶対的に悪いのは女。だがジタバタするのはひたすら男だ。「あんな女が出世するなんて！」と怒り狂っていたくせに、二人きりで迫られるとつい鼻の下がのびのび。おまけにその事実を知った女房に「相手の女の魅力は、10点満点のうち何点なのよ」とすこまれば、自分を破滅させようとしている女のことを「うーん、8点だ。いや、9点か？」なんて真顔で言ってるんだから、情けないったらありやしない。挙げ句の果てに「セクハラされたのは俺のほうがぞ！」って、気持ちにはわかるが、

そんなこと自信たっぷりには主張してどうする。しかしアメリカでは女性上司による男性部下へのセクハラ事件が既に起きており、決して絵空事とはいえない内容なのだ。原作は「ジュラシック・パーク」「ライジング・サン」のマイケル・クライトン。あのインテリ作家がこんな男女のドロドロを？と思いきや、物語は後半から意外な方向に進み、企業の思惑がからんだパワーゲームへと発展してゆくあたり、俄然おもしろくなる。舞台となる企業内の開発競争や、事件の鍵になる最新技術のパイオニア・リアリティなどは、デミ・ムーアのグラマラス・ボディよりも見る価値ありかも。「女のセクハラ」ばかりが話題先行している今作だが、ハイテク業界の内幕や人間関係が垣間見られる点で、エンタテイメント性は高い。

*2月25日より松竹座にて公開

天才

と呼ばれ、音楽以外には何事にも興味を示さず、50歳でこの世を去るまで生涯独身を過ごしたカナダのピアニスト、グレン・グールド。彼の初の伝記映画「グレン・グールドをめぐる32章」が京都で公開される。どちらかといえば地味で静かなこの作品が、カナダを始めヨーロッパほか各国で絶賛されたという事実は決して不思議なことではないだろう。

わずか3歳にして音楽的才能を発揮したグレン・グールドは、ピアニストとしての名声を欲しいままにするが、32歳で何の前触れもなく今後コンサート活動は一切しないと宣言。以後はレコーディングによる完璧な音を追求め続け、著作や指揮に人生を捧げた。「神がかり的」「完璧主義者」「変人」

などなど、様々な形容で呼ばれたエキセントリックなその横顔は、類い稀なる芸術家という点を除いても我々の好奇心を煽るに十分だ。この作品はそんなグールドにまつわる32のエピソードを、彼の流れるような美しいピアノ曲の演奏に乗せて描いてゆく。各エピソードに起承転結はない。グールドがしゃべる。笑う。沈黙する。不可解な行動を起こす。意味のない質問を浴びせるインタビュアー達を煙に巻く。そうすることで彼は、どこまでも自分の世界に酔いしれる。グールドはそこにいるが、果たして彼の心の中にどんな思いがあるのか、映画は一切の説明を欠いている。彼はひとりの天才として、ただ我々の前に存在するのみ。つまりこれは、生い立ちから死に際ま

でをまるで見えてきたかのように親切丁寧に語る、よくある伝記とは全く異質のものなのである。それはやよとつきにくい印象を与えるかもしれない。しかし、実際に他人の心を覗きこむことなどできないように、彼の行動に何の解説もないことで、逆に我々はグールドという人物をより近い距離で感じることが出来る。

*3月中旬よりみなみ座にて公開予定

THIRTY TWO SHORT FILMS ABOUT GOULD

グレン・グールドをめぐる32章

ある音楽家に関する、
我々が知り得る
いくつかのエピソード。



MOVIE